■（１１）驚いたら見出しも目を「白黒」！

黒地に白抜きの文字で「北朝鮮、韓国に砲撃」。そんな大見出しが、２４日付朝刊１面に載った。普通の記事の見出しは、白っぽい紙の上に黒文字で縦方向に書く。全体の大きさでニュース価値の大小を表す。それが今回のような特大ニュースの場合、見出しの文字と地の色は反転し、さらに横書きになる。まさに、目を「白黒」という感じだ。

太平洋戦争では、米軍の爆撃機が国内に飛来した。警戒や空襲の警報が鳴り響き、原爆や焼夷弾などで多くの住民の命が奪われた。１９４５年８月１５日の終戦で、その恐怖から国民は解放された、と多くの若者は思い込んでいるだろう。だが、それは不正解。

福岡に住む母（６９）は旧満州からの引き揚げ経験者。その母は「戦後も空襲警報が鳴った」と今も訴える。朝鮮戦争勃発から５日後の１９５０年６月３０日付本紙を調べてみた。１面に「小倉・八幡等に警報」の縦見出し。「正体不明の飛行機の近接」で警戒警報が発令され灯火管制も。福岡では米軍が拡声機付きトラックで市民に警戒を呼びかけた、とある。その戦争はまだ終わっていない。体験者が語り継ぐ大切さをあらためて痛感する（山）